

未来へ夢を育む学校



学校だより

6月号 学校長 右橋 康彦



「つながる ひろがる えがおになる」

子どもたちの学校生活も少しずつ落ち着きを見せてきました。校庭では、運動会を終えた子どもたちが、どこか誇らしげな表情で過ごしています。今年の創立90周年記念運動会は、白幡小学校90周年スローガンでもあり、運動会スローガンでもある「つながる ひろがる えがおになる」を掲げて実施しました。前日まで雨が続き、校庭整備や準備も簡単ではありませんでしたが、多くの教職員やPTA、地域の皆様の支えの中で当日を迎えることができました。当日は、保護者の皆様にも観覧や移動の場面で譲り合いながらご協力いただき、落ち着いた温かな雰囲気の中で運動会を進めることができました。PTA役員やボランティアの皆様、そして校門付近で安全を見守ってくださったいちょうの会の皆様にも、心より感謝申し上げます。また、校庭には、いちょうの会によって、白幡小学校の歴史を感じられる写真も展示されました。昔の校舎や当時の子どもたちの姿を、多くの保護者の皆様が足を止めてご覧になっていました。中には、「懐かしいね」「自分たちの頃は…」と話しながら見入っている姿もあり、90年という歴史のつながりを感じる時間となりました。一方で、今年の運動会では、放送・音響設備の不具合により、演技中に音楽が途切れる場面がありました。特に表現運動では、子どもたちや保護者の皆様にご心配やご不便をおかけしてしまいました。学校としても大きな課題として受け止め、今後に向けて機材や運営方法をしっかり見直してまいります。しかし、そのような場面の中で、私は白幡小学校の子どもたちの素晴らしさを改めて感じました。音楽が止まり、一瞬校庭に戸惑いが広がりました。それでも子どもたちは踊ることをやめませんでした。これまで仲間と積み重ねてきた練習、表現したいという思いが、音楽がなくても身体の中にしっかり残っていたのだと思います。そして、見守っていた子どもたちから自然に「頑張れ！」という声が上がりました。その声に励まされるように、最後まで演技を続ける姿がありました。また、応援団の子どもたちの姿も大変立派でした。大きな声で全校を引っ張り、きびきびと動きながら運動会全体を支えていました。6年生の係活動でも、自分の役割を果たそうと一生懸命に動く姿がたくさん見られました。競技や演技をする子どもだけでなく、支える側として頑張る姿にも、大きな成長を感じました。私は今回の運動会を通して、「つながる ひろがる えがおになる」という言葉は、うまくいっている時だけのものではないのだと感じました。思い通りにいかない時、困った時、予期せぬ出来事が起きた時にこそ、人と人とのつながりや支え合いが見えてくるのだと思います。そして、それは子どもたちだけではなく、私たち教職員にとっても、大切な気づきのある運動会となりました。整った環境を準備する責任を改めて感じるとともに、その中で育てている子どもたちの力を見逃さず、学校として学び続けていくことの大切さを感じています。運動会を終えた子どもたちは、本当に満足そうな表情をしていました。その笑顔こそが、今年の運動会の何よりの成果だったのではないかと思います。今の子どもたちの笑顔も、また白幡小学校の新しい歴史として未来へつながっていくのだと思います。

これからも、子どもたち一人ひとりの頑張りやつながりを大切にしながら、90周年の歩みを未来へつないでいきたいと思っております。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

◆学校の教育活動の様子については、学校ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shirahata/>

二次元コードはこちらから→

